

プログラム番号

06019

平成18年度「国費外国人留学生(研究留学生)の優先配置を行う特別プログラム」

【1. 大学の概要】

①大学名 研究科名	東京工業大学大学院理工学研究科建築学専攻		
②学長名	相澤益男		
③所在地	〒152-8552 東京都目黒区大岡山2-12-1		
④担当者 連絡先	所属部局・職名	学務部留学生課・留学生課長	
	担当者氏名	大川 晴美	e-mailアドレス ryugakusei@jim.titech.ac.jp
	電話・FAX番号	03-5734-3027, 7667・03-5734-3677	
⑤ホームページURL	http://www.titech.ac.jp/		
⑥大学院在学留学生数	667人(うち、国費留学生 294人)(2006年10月1日現在)		

【2. プログラムの概略】

①プログラムの名称	都市・建築デザイン国際協働研究による人材養成プログラム
②プログラムの形態	修士課程(2年間)
③実施研究科・専攻	理工学研究科 建築学専攻
	(所在地) 〒152-8552 東京都目黒区大岡山2-12-1
④連携大学・研究科・専攻名	なし
⑤受入れ学生数	20人(うち研究留学生優先配置人数: 5人) (うち日本人学生数: 12人)
⑥担当教員数	合計 22人(うち専任: 16人、兼任: 5人、非常勤: 外国人1人)
⑦研究科長(代表者)名	所属部局・職名 理工学研究科・工学系長
	研究科長名 藤井 信生

【3. プログラムの内容】

■開設の趣旨

本建築学専攻への留学生は、フランス、ドイツ、イギリス、オランダ、スウェーデン、スペイン、イタリアなど欧州の大学の、しかも5年の建築専門課程の卒業生が多い。このような学生は、日本の大都市東京で次々に生みだされる新しい建築に興味を持ち、そのデザイン活動を可能にする日本の社会システム、文化的伝統、建築技術を学びたいという強い希望を持っている。一方で、学部を卒業した優秀な日本人学生や実務経験のある若手技術者の中には、国際的環境の中でデザインを学びたいと切望するものが増えている。彼らを欧米からの留学生と一緒に教育すれば、相互啓発の効果も高いことから、国際的視野の育成を含めて高い教育的効果が期待できる。したがって、留学生と日本人学生の交流を積極的に促す特別プログラムを開設することは意義あることと考えられる。

建築デザインは、学術、技術、芸術を統合させる行為であり、国際的環境の中で活躍するには、幅広い能力（基礎学力、問題設定能力、構想力、創造力、統合力、応用力、表現力、解決能力、実行力、コミュニケーション力、チームワーク力、指導力など）の育成が不可欠である。本専攻には、それらに対応できる教員がそろっており、このような教育ニーズに十分応えられる。

以上を踏まえ、本プログラムでは、国際舞台で活躍する建築家、技術者、研究者、教育者に必要な、広い国際的視野と高度なデザイン・研究能力を養成するための特別コースを用意し、世界の第一線で活躍できる留学生及び日本人学生の両方を同時に育成する。本コースでは、講義、事務手続き、論文審査を原則英語とし、講義に加え、フィールドワーク、Project-Based Learning、創成科目等の実学と協働研究を重視して、高いエンジニアリングデザイン能力の習得を目指す。このため、欧米提携校教員の短期招聘および国際インターネット講義、国際協働デザインワークショップ、研究留学生 TA 制度、助教による副指導教員制、日本人学生交換留学プログラム、IT デザインステーションなど特色ある新たな施策と環境を用意する。これにより、多くの優秀な留学生および日本人学生を結集・育成し、その協働研究や相互啓発の効果を高めると同時に、本専攻の国際化、国際競争力の強化ならびに教員および次世代を担う若手の国際ネットワークの構築をはかる。

■プログラムの内容

本コースの教育プログラムの内容は以下の通りである。

1) **プログラムの目的**：国際舞台で活躍する建築家、技術者、研究者、教育者には、幅広いエンジニアリングデザイン能力が必要である。本特別プログラムでは、広い国際的視野のもとに高度なエンジニアリングデザイン能力を備えた人材を養成するための特別コースを用意し、世界の第一線で活躍できる留学生及び日本人学生の両方を同時に育成する。

2) **プログラムの形態**：研究留学生に対しては、欧米からの5年以上の建築専門課程の卒業生からの修学ニーズが高く、また留学生と日本人学生の混合教育による顕著な効果が期待される修士課程のみの募集とする。

3) **受入学生**：留学生（研究留学生とそれ以外の留学生）と日本人学生を同時に受入れ、その協働研究や相互啓発の効果を高めると同時に、学生間の交流を活性化させて、次世代を担う若手の国際ネットワークの構築をはかる。

4) **カリキュラム**：図1は、本コースの教育の流れを示したものである。カリキュラムは添付書類の通りで、英語開講授業科目は、講義8科目16単位、講義+実習2科目4単位、実習14科目30単位で、このうち、修士課程のSeminar on Architectural Design（各学期2単位）が必修である。授業科目には、フィールドワーク、Project-Based Learning (PBL)、創成科目（デザインスタジオ）、国内企業でのインターンシップなどの実学科目（実習）、協働作業を多数取り入れ、これらの科目の中で、企画、実践、プレゼンテーション、ディスカッション、批評、改善、のサイクルを繰り返すことで、効果的に幅広いエンジニアリングデザイン能力を養う。

5) **修了の要件**：修士修了要件は、特別コース16単位以上、他専攻、全学科目等4単位以上を含めて、30単位以上を取得し、修士制作（論文）の審査に合格することである。修士課程では、学位取得に向けて、2年次の後期に中間審査を行い、必要ならば、適切な改善を促す。

■使用言語

本コースは、留学生の履修と日本人学生の国際コミュニケーション能力の向上を助長するため、講義、事務手続き、論文審査を原則英語とする。国際経験を持つ教員が多いので、本プログラムで行う英語講義、審査などに対して何ら問題はない。

■教育・指導体制（論文指導等サポート体制）

留学生の科目履修などにきめ細かく対応するため、主指導教員に加えて、副指導教員を配置する。また、フィールドワークや研究成果のプレゼンテーション、ディスカッション、批評の段階では、全教員が参加して、様々な観点からの指導を行ない、迅速かつ持続的な研究の改善・推進を促す。

■プログラムの特色と施策

本建築学専攻は、国際的な評価を得ている建築家を複数擁している。坂本一成教授が、ドイツ・ミュンヘンに建設される大規模集合住宅の国際コンペ（2006年）で1位入選し、実施設計者に選ばれたことはその象徴である。そのような魅力ある教育陣と研究対象をもった本専攻には、日本国内はもとより、欧米からの留学希望が多い。そこで本プログラムでは、留学生と日本人学生の両方にとって効果的な教育を施し、単なる建築デザイン能力だけではなく、真のエンジニアリング能力を備え、国際的に活躍できる建築家・研究者の養成をめざす。その具体策は下記の通り。

1) **提携校教員の招聘および国際インターネット講義**：本学教員の講義に加え、提携校の教員の短期招聘およびインターネットにより、海外の建築家による多彩なデザイン教育を受講可能にする。建設系には、インターネット講義・会議室があり、ミュンヘン工科大学、ヘルシンキ工科大学との間でデザイン講義を開講した実績もある。このような人材交流により、教員相互の強い国際連携、ネットワークも構築できる。

2) **国際協働デザインワークショップ（デザインスタジオ）**：本専攻では、毎年不定期に、提携校等（メルボルン工科大学、デルフト工科大学）から教員・学生を迎え、本学教員・学生との2国間デザインワークショップを開催するとともに、逆に、本学教員・学生を海外提携校等（上海同済大学）に派遣して同様のワークショップを開催し、これらのワークショップによる協働作業や創作作業をとおした教育効果が極めて高いことを確認している。本コースでは、これらの国際コラボレーションワークショップを授業科目（デザインスタジオ）として定着させ、留学生と日本人学生の協働研究として行い、さらに多国間ワークショップへ発展させることも検討する。ワークショップでは、与えられたテーマについての解決策の提案をグループでまとめる訓練なども行う。これにより、国際コミュニケーション能力、チームワーク力、異文化を理解する対応力など国際協働作業に必要な様々な能力を育成すると、同時に、国内外の人的ネットワークを構築する。

3) **インターンシップ**：留学生に対するインターンシップを導入し、日本の設計事務所等におけるデザインプロセスなど建築実践の現場にふれる機会とする。

4) **研究留学生 TA 制度**：優秀な研究留学生を学部授業のTAとして積極的に採用することで、指導力、教育力育成の一助にしつつ、学部学生の国際コミュニケーション力、国際的視野の育成をも図る。

■募集方法、募集対象国、学内選考方法等

1) **募集方法**：募集要項は、東京工業大学大学院建築学専攻のホームページに掲載するとともに、世界の主要大学にインターネットを通じて配信し、広く留学生を募集する。人材交流が活発な協定締結校（デルフト工科大学、スイス連邦工科大学、ミラノ工科大学、ワシントン大学シアトル校、メルボルン工科大学、ヘルシンキ工科大学、ストックホルム工科大学など）に対してはトップクラスの学生の推薦応募を個別に依頼する。

2) **募集対象国**：欧米およびアジア諸国を含む世界各国。

3) **選考方法**：選考方法は、まず申請書類（研究計画、学習実績を含む）とポートフォリオ（過去の設計作品等をまとめたもの）の書類審査により人数を絞り、次に関連教員が直接現地に出向いてまたはインターネットによるインタビューを行い、その結果の報告を受けて専攻教員の合議に基づいて受け入れ諾否を決定する。一部を推薦枠として、協定校からの推薦応募者のために優先的に確保する。

■本プログラムの点検・評価の体制

毎年度末にカリキュラム、指導体制などに関する学生アンケートを行い、その結果を集計、点検することで、関連教員の自己評価、および講義方法や指導体制の改善を促す。同時に、学生インタビューを含む外部評価を実施する。

また、本プログラムの成果や評価を英文の報告書としてまとめる。この報告書の一部は、平成2年15年以上にわたり建築学専攻の教員と大学院生が編集・出版している、設計作品とその評価などを掲載した雑誌「華」の英語版とする。この編集作業をプレゼンテーション能力を高める特別プログラムの一環と位置づけ、教員の指導のもとに、留学生および日本人学生の協働作業によるものとする。報告書は、協定締結校を含めた国内外の主要大学や関係機関に配布する。